

—若手技術者のコーナー—

育児と仕事の両立

1. はじめに

私は、男性としては珍しく、1年間の育児休業をとった経験がある。また、今現在も、フルタイムで働きながら、保育園に通う子供達の迎えを担当している。これらの育児に関わった経験を通して感じたこと等についてご紹介したい。

2. 私の家庭の紹介

私(30歳)には妻と子供が2人(3歳、1歳)おり、妻は同じ関東地方整備局の技術系職員である。夫婦共に実家が遠方であり、育児に関してお互いの両親の助けは得られない現状であることから、私は第1子が生まれた翌年度(平成28年度)に、妻が職場復帰するのを契機として1年間の育児休業を取得した。

また、育児休業復帰後の平成29年度には第2子が生まれたこともあり、現在(平成30年度)では、夫婦共にフレックスタイム制を活用しながらフルタイムで働き、私が保育園に通う子供達の迎えを担当している。

3. 育児を中心とした働き方を選択した理由

女性は出産、育児のために一定期間仕事を休まなければならない。一方、男性は必ずしもその必要はない。私の妻は「子供は欲しいが仕事も頑張りたい」と考える女性であり、私も妻に「子供が出来たから思い切り仕事が出来なくなった」とは思ってほしくなかった。

また、仕事は何十年も働き続けられるのに対して、子供が小さくて手にかかる期間は短い。「あの時育児にもう少し関わっておけばよかった…」と後悔したくないと思い、迷わず育児を中心とした働き方を選択した。

4. 育児と仕事の両立について思うこと

1年間の育児休業が終わり、今の部署に異動する形で職場復帰した。復帰して感じたことだが、子供の成長を間近に見たことで、育てていくことへの責任感や成長の先にある子供の将来を考えると、ますます仕事に力が入るといった相乗効果があるように思えた。そのような中、仕事に対する取り組み方にも変化があり、限りのある時間の中でいかに効率的に業務をこなすことが出来るかを常に意識し、工夫しながら働くようになった。

その一方で、子供達を保育園に預けていると、いつ体調不良で保育園から呼び出しが来るかわからず、それが時には数日間休暇を取らなければならない場合もある。現在は、急な休暇願いの申し出に対しても快く送り出してくれる職場の理解もあり、夫婦で仕事の都合がつく方が休暇を取るようして対応している。夫婦で互いに休暇を取り合っていることもあり、仕事に対しては必要最低限の影響で済んではいるが、そのような時に助けて頂ける職場には本当に感謝の気持ちでいっぱいである。

このように、育児と仕事の両立には、職場の理解が必要不可欠であると思う。職場の理解がある上で、夫婦で互いの立場を尊重し合い、お互いが育児に協力的であれば、育児と仕事の両立は可能だと感じている。

5. おわりに

仕事をしながら育児に関わる経験をしたことで、思い切り仕事が出来なくなる女性側の環境や育児に関する苦悩、葛藤等を知ることができた。これは経験してみないとわからないため、「知っている」ではなく、「経験している」というのが大事である。

来年度は妻と役割を変え、妻が子供達の迎えを担当し、私は子供達の送りを担当するため、時間の制約された働き方ではなくなるが、今回経験したことを踏まえて家庭に寄り添って働くつもりである。

関東地整では、夫婦共に技術系職員で2人以上の子供を育てている先輩があまり多くないため、これからの働き方については手探りの状態ではあるが、自分達なりの家庭のあり方を徐々に見出してきているところである。子育て中だからこれだけしか出来ない決めつけず、仕事も家庭もバランスをとりながら自分のペースで将来を切り開いていきたい。



企画部の仲間と駅伝大会に参加して(筆者は右から3番目)

(国土交通省 関東地方整備局 企画部 技術管理課 西田 慎悟)